

≡二災害支援講座

自家発電設備付き給油所

「住民拠点サービスステーション (SS)」とは？

全国には自家発電設備を備え、災害などが原因の停電時にも住民に燃料供給ができるガソリンスタンドがあります。

通常、ガソリンスタンドでは地下タンクに保管されている燃料を電力によってポンプでくみ上げ給油しています。しかし、災害などで停電になるとポンプが停止してしまうため手動に切り替えて給油することとなり、時間を要するため給油待ちの渋滞が発生することが懸念されます。実際に、平成23年の東日本大震災や平成28年の熊本地震では渋滞が発生しました。

そこで、災害などで停電になっても給油ができるよう自家発電設備を持つ住民拠点SSの整備が進められてきました。



住民拠点SSはどこにあるの？

住民拠点SSは、令和7年2月28日の時点で全国に14,260ステーションが整備されており、群馬県には246ステーション存在します。万が一災害が起きた時のために、近くの住民拠点SSを知っておきましょう。

検索してみよう！



資源エネルギー庁「住民拠点サービスステーションについて」
https://www.enecho.meti.go.jp/category/resources_and_fuel/distribution/juminkyotenss/

全国の住民拠点SSを検索できます！



「満タン&灯油プラス1缶運動」について

「満タン&灯油プラス1缶運動」とは、災害時に備えて、車の燃料は常に満タンに、灯油は1缶余分に持つておこうという運動です。

車の燃料が満タンであれば、400km前後の移動が可能であり、灯油1缶あれば、7畳程度なら暖かい空間を85時間程度維持できます。

私たち一人ひとりが「満タン&灯油プラス1缶運動」を日ごろから心がけることで災害時の安心度が高まります。

